

## 新潟港（東港）ガントリークレーン倒壊事故

防災部門・複合防災分野・卜部 厚志  
 生活安全部門・危機管理分野・田村 圭子  
 防災部門・複合防災分野・鈴木 幸治

### 事故の概要

2006年11月7日の14時15分頃、新潟県新潟市の中心部から北東に位置する新潟東港（新潟市横土居）の14m岸壁において、ガントリークレーン1基が倒壊する事故が発生した。新潟東港は、新潟県が開発した工業地域の中心にあり、海岸付近の砂丘列を掘削して作られた人工の港で、新潟県のコンテナ輸送を担う重要な港湾施設での事故である。東港のガントリークレーンは、全部で4基あり、このうちの1基の倒壊により、港湾作業に大きな影響を与えるものである。

負傷者は、クレーンのオペレータ1名とクレーンの倒壊により一部が損壊したマリnhaus（作業員休憩所）の内部にいた港湾作業関係者が2名重軽傷を負った。発災時は、新潟地域に強風、波浪警報が発令されており、風速約30mの強風が吹いていた。

クレーンを運行していた港湾会社によると、倒壊したクレーンは11月7日の朝から作業をしていたが、午前11時半ごろから強風のため作業を中止していた。オペレータは高さ約40mにある運転室で待機していた。ブレーキはかけていたが、車輪にストッパーをしていなかったため、強風でレール止めまで100mほど動き倒壊したとされている。

倒壊事故後の東港でのコンテナの荷役作業は、残り3基のクレーンを用いてまかなわれているが、荷役作業時間の短縮と港湾利用に対する風評被害を防ぐため、新潟県では、倒壊したガントリークレーンの新設を決めている。

卜部・田村・鈴木グループでは、事故発生の日翌の11月8日に倒壊現場の対岸より視察をおこなったので報告する。

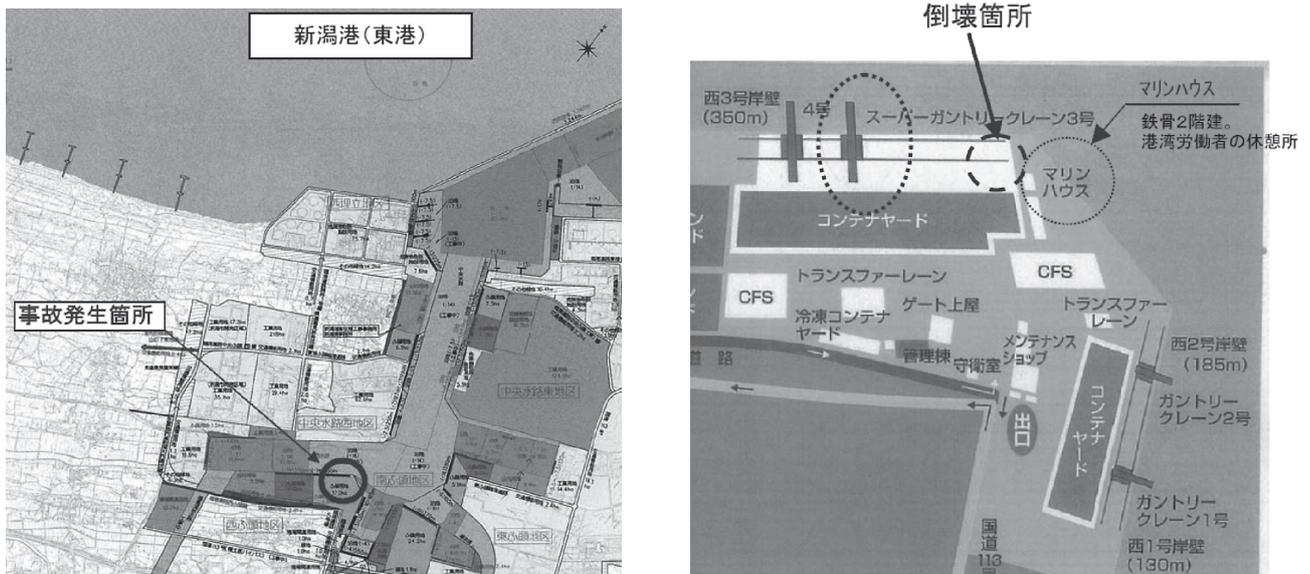


図-1 新潟港（東港）の見取り図とクレーンの配置図



写真-1 倒壊したクレーン



写真-2 倒壊したクレーン（全景）